



作品名「合図II」(桜ヶ丘ミュージアムで)



空間を生かした個性的な作品

豊川市桜ヶ丘ミュージアムで
「村田千秋」企画展が開幕

1年越しで実現し展示アピール

豊川市桜ヶ丘ミュージアムの企画展「村田千秋―記述の仕組み―」が、7月31日に開幕した。同市出身の現代美術作家、村田千秋さん(71)＝豊橋市＝の、空間を生かした個性的な作品が22日まで披露される。入場無料。(森美香)

新型コロナウイルス対策として、オープニングセレモニーは関係者のみで開催され、竹

セレモニーでのテープカット。中央が村田さん(同)

本幸夫市長は「地元が生んだ優秀な作家の作品を、多くの人に見てもらいたい」と期待した。

続いて、村田さんと美術評論家の三頭谷鷹史さんによる対

談があった。三頭谷さんは現代美術の時代背景を、アンデ

イ・ウォーホルらの作品を例に挙げて紹介。話の中で村田さんは、「日々の生活の中で面白いと思ったものを自分なりに再構築したものが作品になっている」などと、制作について語った。

展示は、村田さんが今後の制作の道標のような意味を

持つと言う「合図」シリーズをはじめ、ドローイングなどもある。

同館の担当者は「(コロナの影響で)1年越しの開催。作品を難しくとらえず、美術にはこんな

表現のものもあるというのを感じてもらえれば」とアピールしている。

8日の午後2時には、村田さんのギャラリートークがあり、誰でも参加できる。